

調査結果の概要

【記載内容についての注意】

- ・ 調査結果の比率(%)の数値は小数第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならないことがある。
- ・ 複数回答の設問では、その比率(%)の合計が100%を上回ることがある。
- ・ 文中の「n」は、「number of cases」の略で、質問に対する回答者の総数を表す。
- ・ 《 》は、2つ以上の選択肢を合わせた場合に用いる。

例：問3で「持っていると思う」と「ある程度持っていると思う」を合わせたものを《持っていると思う》と表現している。

また、この場合の比率は実際の回答数の合計から算出しており、個々の選択肢の比率の単純な合計とは値が異なる場合がある。

- ・ 文中の表記の語句は、短縮・簡略化している場合がある。

1 食の安全・安心（問1～問3）

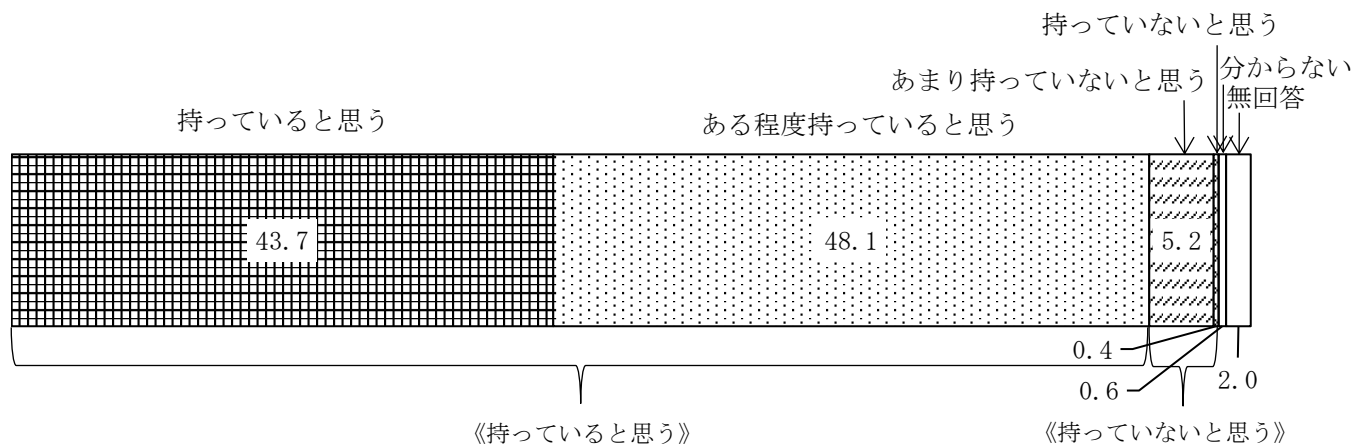
県では、県民の皆様の食の安全・安心の確保に向けた取組みを推進しています。今回、食品を安全に食べるために必要な知識などについて調査しました。

▼食品を安全に食べるために必要な知識（問3）

食品を安全に食べるために必要な知識（例えば、調理や食事前によく手を洗う、生肉はよく加熱するなど）を持っていると思うか尋ねたところ、「持っていると思う」（43.7%）と「ある程度持っていると思う」（48.1%）を合わせた《持っていると思う》は91.8%であった。

一方、「持っていないと思う」（0.4%）と「あまり持っていないと思う」（5.2%）を合わせた《持っていないと思う》は5.6%であった。[図表1]

図表1 食品を安全に食べるために必要な知識（n=1,285）（%）



2 食・食育（問4～問10）

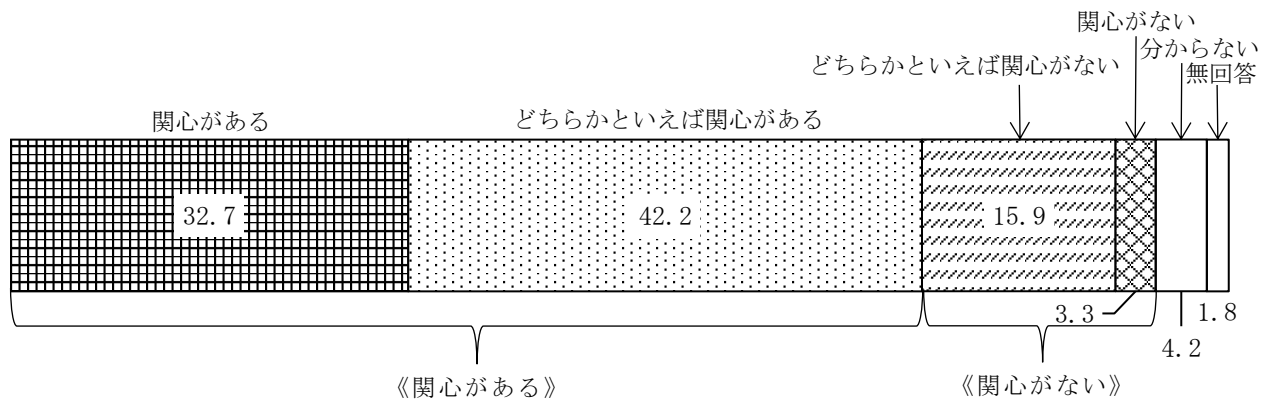
県では、未病を改善するための重要な要素である「食」について、県民一人ひとりが理解を深め、健全な食生活を実践することで、誰もが元気に笑顔で長生きできる社会の実現を目指して、「食育」を推進しています。今回、「食育」への関心などについて調査しました。

▼「食育」への関心（問4）

「食育」に関心があるか尋ねたところ、「関心がある」（32.7%）と「どちらかといえば関心がある」（42.2%）を合わせた《関心がある》は74.9%であった。

一方、「関心がない」（3.3%）と「どちらかといえば関心がない」（15.9%）を合わせた《関心がない》は19.1%であった。〔図表2〕

図表2 「食育」への関心（n=1,285）（%）



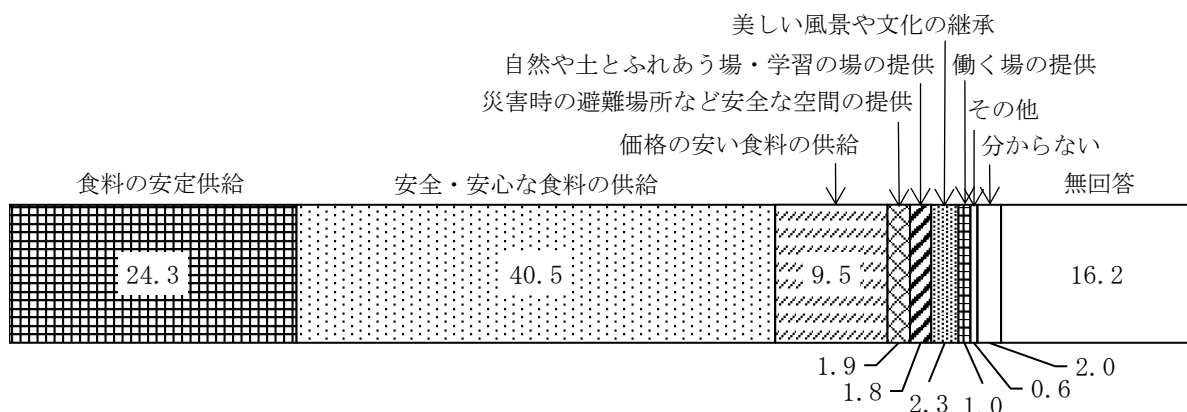
3 かながわの農林水産業（問11～問15）

県では、都市農業の持続的な発展を図るため、地産地消の推進や多様な担い手の育成などの取組みを進めています。今回、県の農業に期待する役割などについて調査しました。

▼県の農業に期待する役割（問11）

県の農業にどのような役割を期待するか尋ねたところ、「安全・安心な食料の供給」が40.5%で最も多く、次いで「食料の安定供給」が24.3%であった。〔図表3〕

図表3 県の農業に期待する役割（n=1,285）（%）



4 SDGs（持続可能な開発目標）（問16～問17）

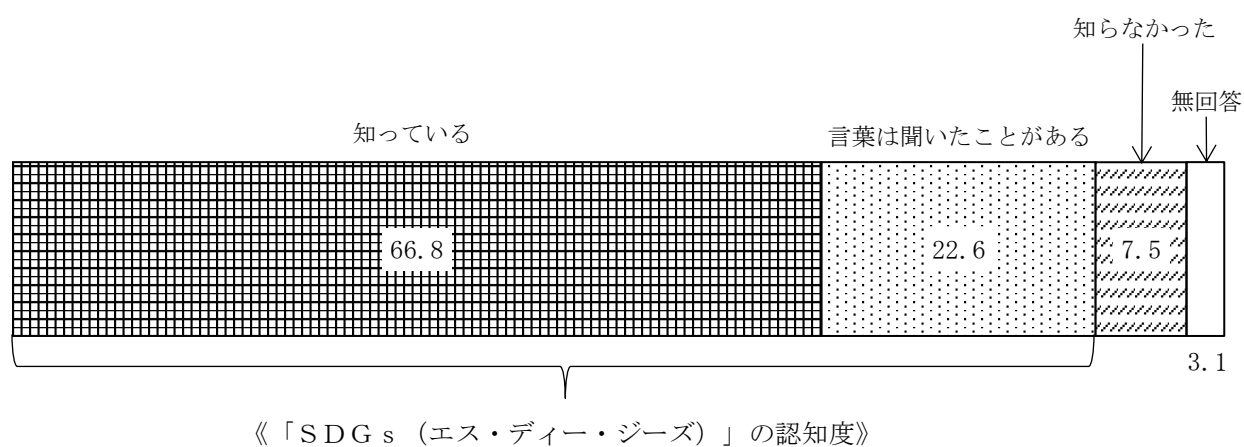
県では、「いのち輝く神奈川」の実現に向けて、持続可能な社会を目指すSDGsの推進に取り組んでいます。今回、「SDGs（エス・ディー・ジーズ）」の認知度などについて調査しました。

▼「SDGs（エス・ディー・ジーズ）」の認知度（問16）

「SDGs（エス・ディー・ジーズ）」について知っているか尋ねたところ、「知っている」（66.8%）と「言葉は聞いたことがある」（22.6%）を合わせた《「SDGs（エス・ディー・ジーズ）」の認知度》は89.4%であった。

一方、「知らなかった」が7.5%であった。[図表4]

図表4 「SDGs（エス・ディー・ジーズ）」の認知度（n=1,285）（%）



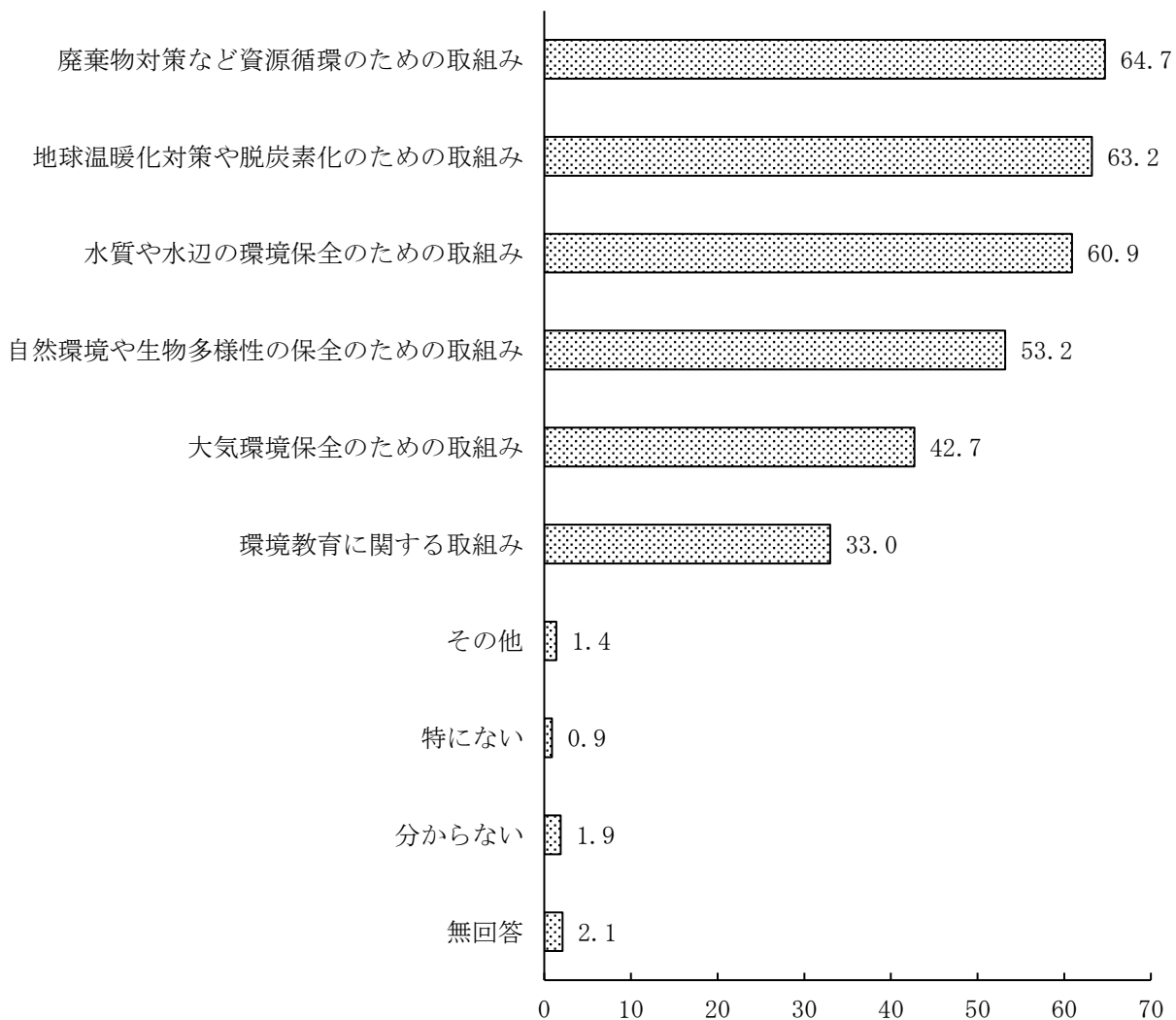
5 環境問題（問 18～問 21）

県では、「神奈川県環境基本計画」に基づき、環境施策を推進しています。今回、県に特に力を入れてほしい環境に関する取組みなどについて調査しました。

▼特に力を入れてほしい環境に関する取組み（問 18）

特に力を入れてほしい環境に関する取組みを複数回答で尋ねたところ、「廃棄物対策など資源循環のための取組み」が 64.7% で最も多く、次いで「地球温暖化対策や脱炭素化のための取組み」が 63.2% であった。[図表 5]

図表 5 特に力を入れてほしい環境に関する取組み（複数回答）（n=1,285）（%）



6 ICT（情報通信技術）（問22～問24）

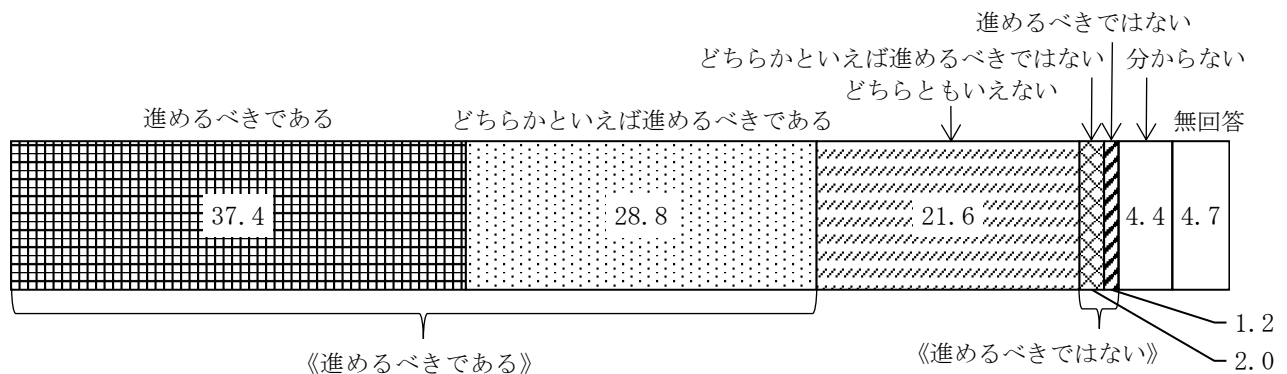
県では、県民の安全・安心や利便性の向上を図る「くらしの情報化」と、それを支えるために行政内部の業務全般の効率化を図る「行政の情報化」という2つの側面から、ICT及びデータの利活用に積極的に取り組んでいます。今回、デジタル化推進に関する意向などについて調査しました。

▼デジタル化推進に関する意向（問22）

少子高齢化や自然災害の増加など、複雑化・多様化する社会課題を解決するため、デジタル化をさらに進めるべきだと思うか尋ねたところ、「進めるべきである」（37.4%）と「どちらかといえば進めるべきである」（28.8%）を合わせた《進めるべきである》は66.1%であった。

一方、「進めるべきではない」（1.2%）と「どちらかといえば進めるべきではない」（2.0%）を合わせた《進めるべきではない》は3.2%であった。[図表6]

図表6 デジタル化推進に関する意向（n=1,285）（%）



7 将来の住まい（問25～問26）

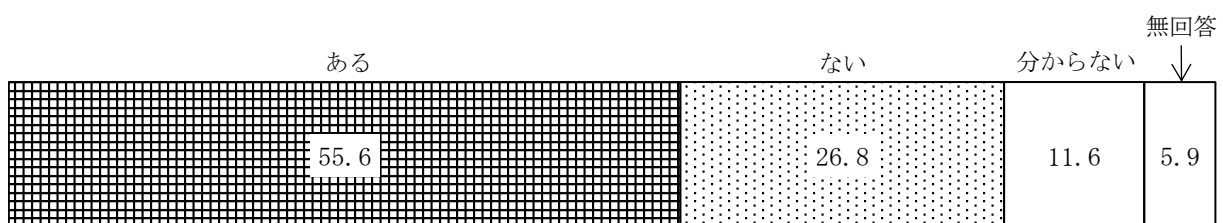
県では、人生100歳時代に向けて、全ての県民がともに支えあい、安全で安心してくらせる「いのち輝く住まいまちづくり」を実現するため、地域の実情に応じた総合的な住宅施策を展開しています。今回、施策の推進に役立てるため、将来の住まいに対する不安などについて調査しました。

▼将来の住まいに対する不安（問25）

高齢者の方に対しては現在、それ以外の年代の方には将来高齢者になったとき、現在の住まいに不安があるかどうかを尋ねたところ、「ある」が55.6%であった。

一方、「ない」が26.8%であった。[図表7]

図表7 将来の住まいに対する不安（n=1,285）（%）



8 地域社会との関わり（問 27）

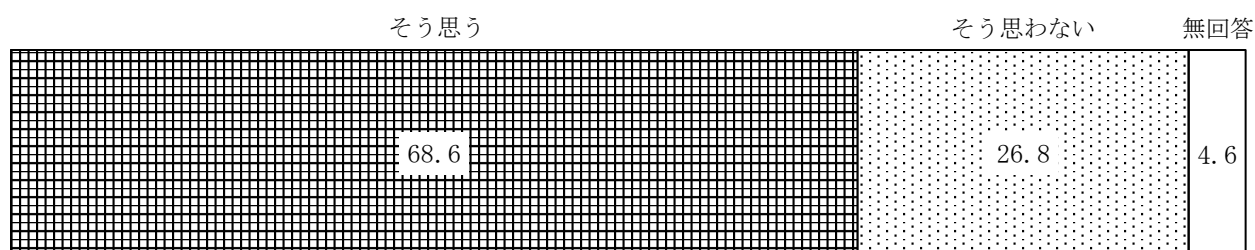
県では、人生 100 歳時代におけるコミュニティ再生・活性化に向けた取組みを推進しています。今回、地域社会との関わりを大切にしている意識について調査しました。

▼地域社会との関わりを大切にしている意識（問 27）

長い人生を充実させるため、コミュニティなど、地域社会との関わりを大切にしているか尋ねたところ、「そう思う」が 68.6%であった。

一方、「そう思わない」が 26.8%であった。〔図表 8〕

図表 8 地域社会との関わりを大切にしている意識（n=1,285）（%）



9 治安対策（問 28～問 30）

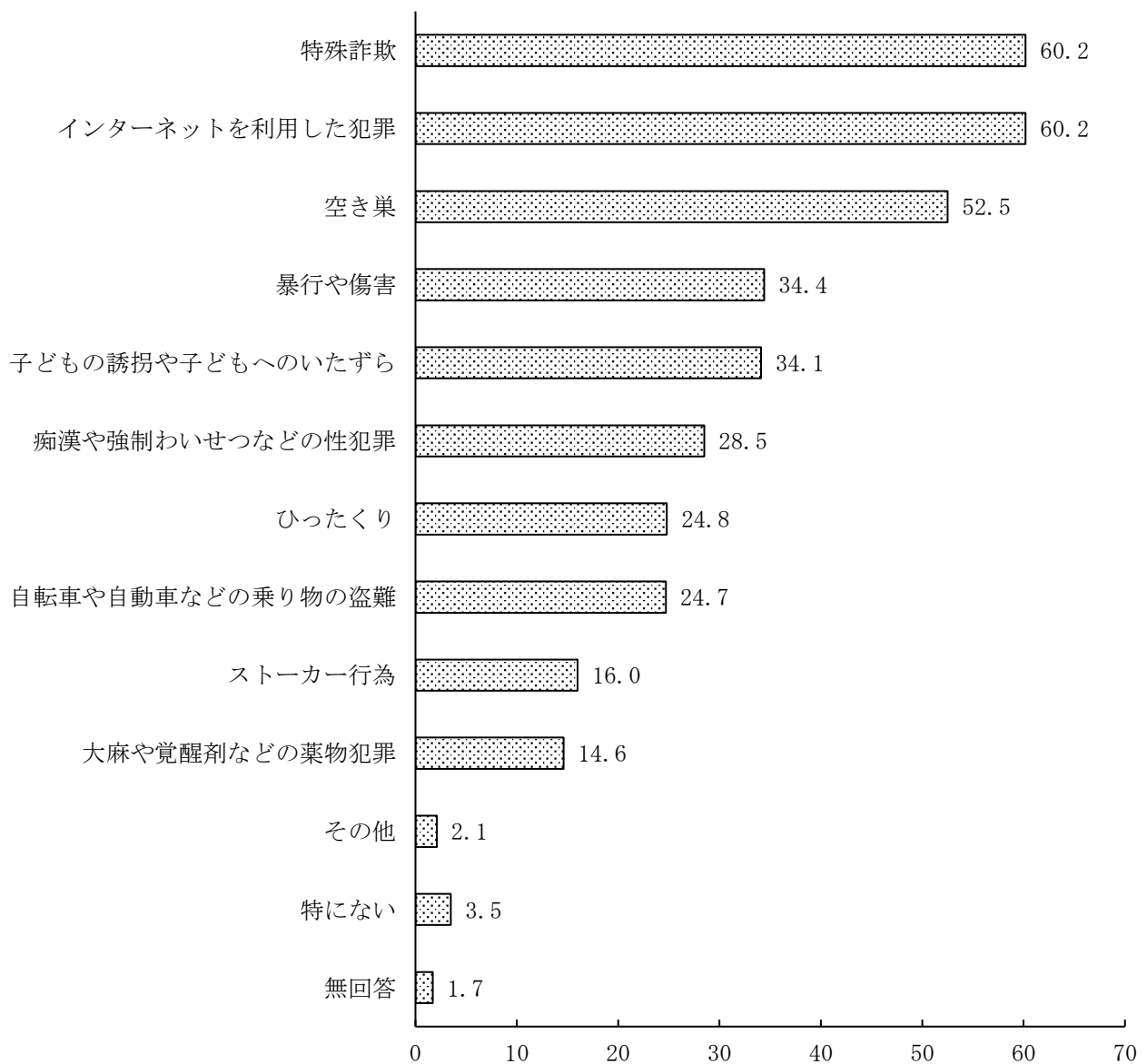
県警察では、県民が身近に不安を感じる犯罪の抑止・検挙活動を始めとした各種警察活動を推進し、県民の皆様が安全で安心してくださる地域社会の実現に努めています。今回、不安を感じる犯罪などについて調査しました。

▼不安を感じる犯罪（問 28）

身近で発生する可能性がある犯罪のうち、不安を感じるものを複数回答で尋ねたところ、「特殊詐欺」と「インターネットを利用した犯罪」が60.2%で最も多く、次いで「空き巣」が52.5%であった。

[図表 9]

図表 9 不安を感じる犯罪（複数回答）（n=1,285）（%）



10 ともに生きる社会かながわ（問 31～問 38）

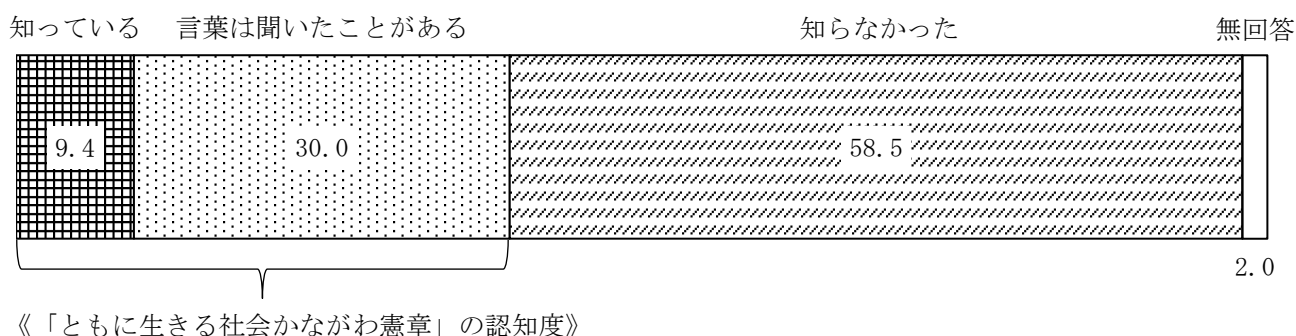
平成 28 年 7 月に県立の障害者支援施設である「津久井やまゆり園」で発生した事件が二度と繰り返されないよう、県は、ともに生きる社会の実現をめざし、県議会とともに「ともに生きる社会かながわ憲章」を策定しました。この憲章の理念を広く県民の皆様に普及する活動を行い、ともに生きる社会の実現に向けた取組みを推進しています。今回、「ともに生きる社会かながわ憲章」の認知度などについて調査しました。

▼「ともに生きる社会かながわ憲章」の認知度（問 32）

「ともに生きる社会かながわ憲章」を知っているか尋ねたところ、「知っている」（9.4%）と「言葉は聞いたことがある」（30.0%）を合わせた《「ともに生きる社会かながわ憲章」の認知度》は 39.5%であった。

一方、「知らなかった」が 58.5%であった。〔図表 10〕

図表 10 「ともに生きる社会かながわ憲章」の認知度（n=1,285）（%）



11 生活に不安や課題がある人への支援（問 39～問 41）

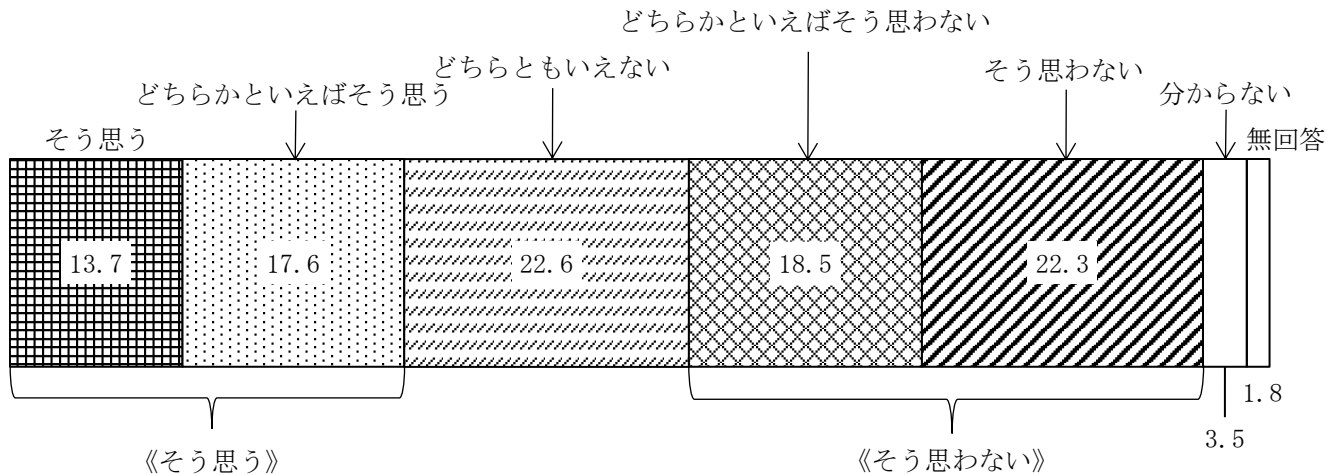
県では、多様な担い手と連携し、生きづらさ・くらしにくさを抱えながら、声を上げない・上げられない方に積極的にアプローチし、早期に相談や地域の支援につなげる取組みなどを推進し、誰もが自分らしく夢や希望を持つことができる地域づくりに取り組んでいます。今回、誰もが夢や希望を持てる社会だと感じる程度などについて調査しました。

▼誰もが夢や希望を持てる社会だと感じる程度（問 39）

私たちのくらす社会では、生まれ育った環境にかかわらず誰もが夢や希望を持てると思うか尋ねたところ、「そう思う」（13.7%）と「どちらかといえばそう思う」（17.6%）を合わせた《そう思う》は31.3%であった。

一方、「そう思わない」（22.3%）と「どちらかといえばそう思わない」（18.5%）を合わせた《そう思わない》は40.8%であった。[図表 11]

図表 11 誰もが夢や希望を持てる社会だと感じる程度（n=1,285）（%）



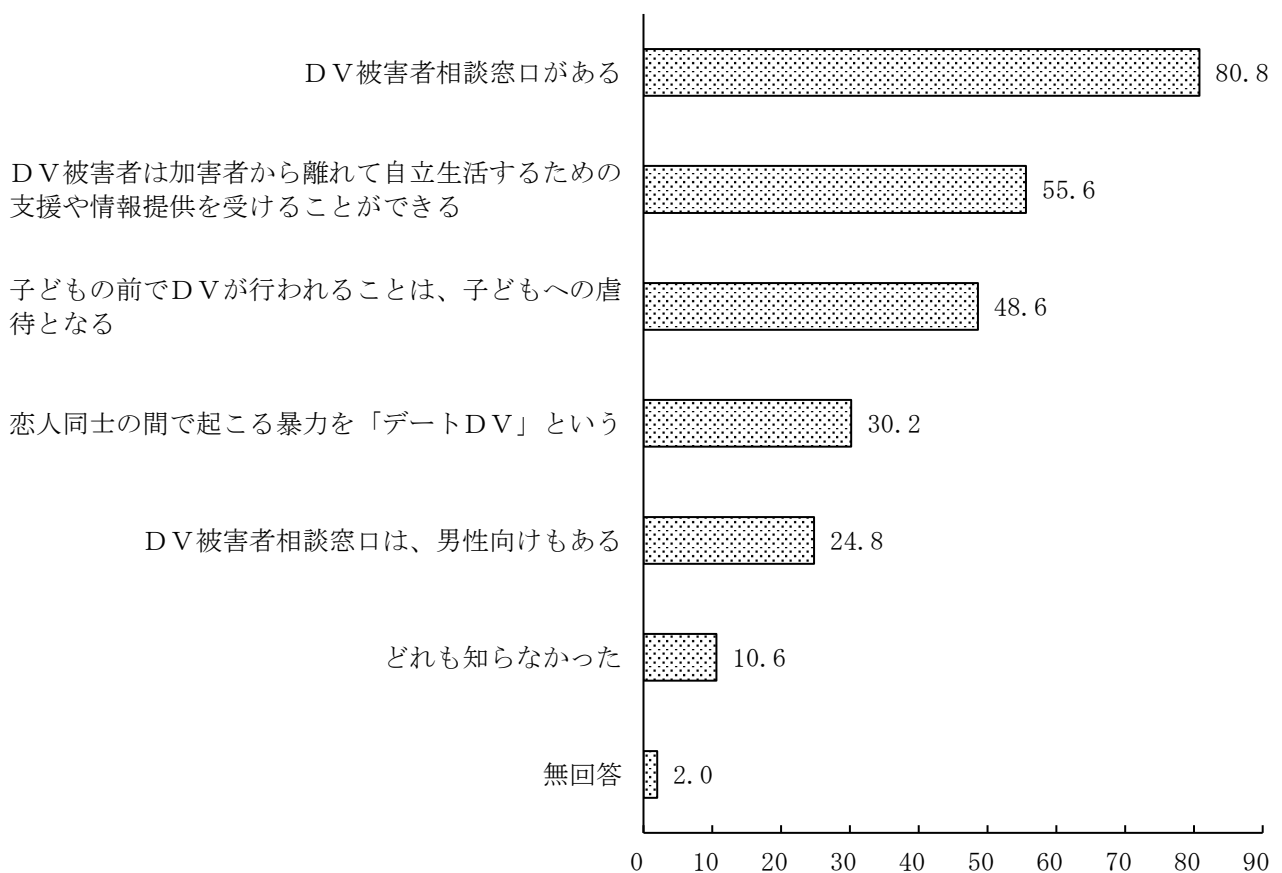
12 配偶者等からの暴力（問 42）

県では、「かながわDV防止・被害者支援プラン」に基づき、DV被害者への支援の充実に加え、DV防止の取組みの強化を図っています。今回、配偶者等からの暴力（DV）に対する知識や理解などについて調査しました。

▼配偶者等からの暴力（DV）に対する知識や理解（問 42）

配偶者等からの暴力（DV）に対する知識や理解について複数回答で尋ねたところ、「DV被害者相談窓口がある」が80.8%で最も多く、次いで「DV被害者は加害者から離れて自立生活するための支援や情報提供を受けることができる」が55.6%であった。[図表 12]

図表 12 配偶者等からの暴力（DV）に対する知識や理解（複数回答）（n=1,285）（%）



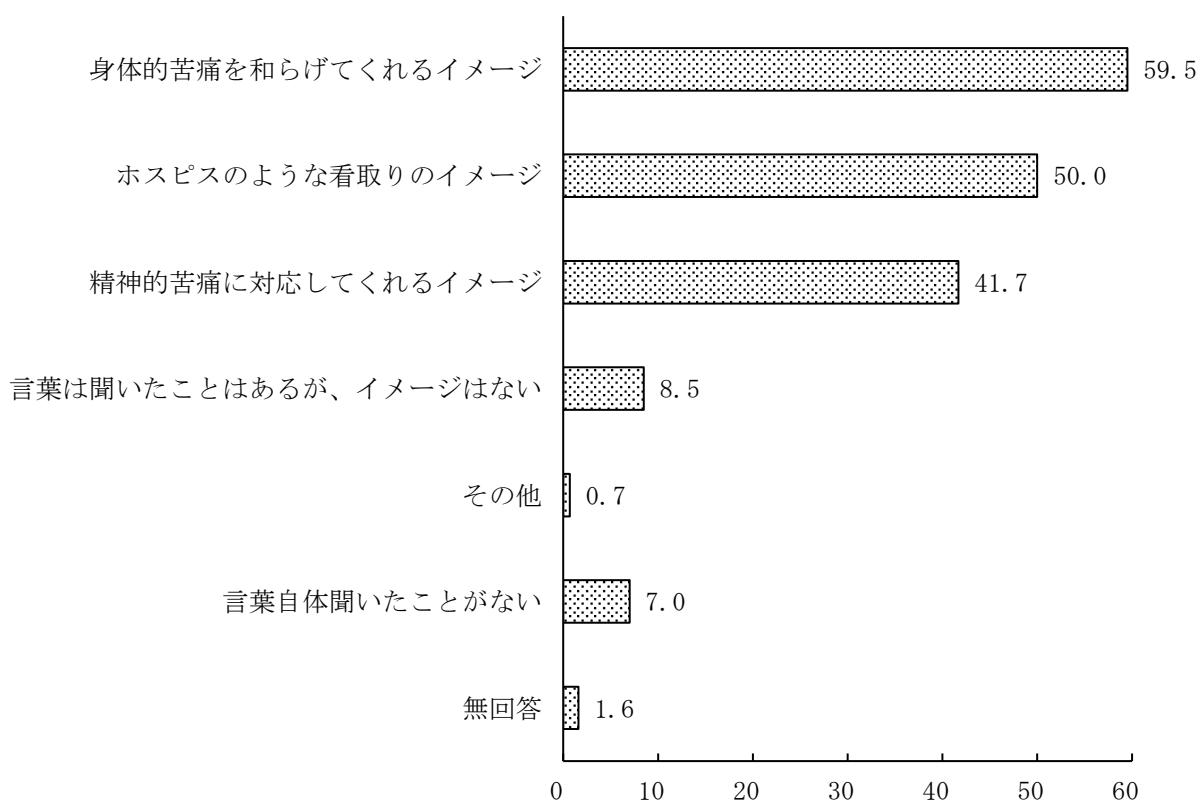
13 がん対策（問 43～問 45）

県では、がんと診断されたときから治療後に至るまで、がん患者とその家族などの身体的・精神的な苦痛に対して、多職種で連携して専門的な支援を行う「緩和ケア」の充実に取り組んでいます。今回、「緩和ケア」に対するイメージなどについて調査しました。

▼「緩和ケア」に対するイメージ（問 44）

「緩和ケア」について、どのようなイメージを持っているか複数回答で尋ねたところ、「身体的苦痛を和らげてくれるイメージ」が 59.5%で最も多く、次いで「ホスピスのような看取りのイメージ」が 50.0%であった。[図表 13]

図表 13 「緩和ケア」に対するイメージ（複数回答）（n=1,285）（%）



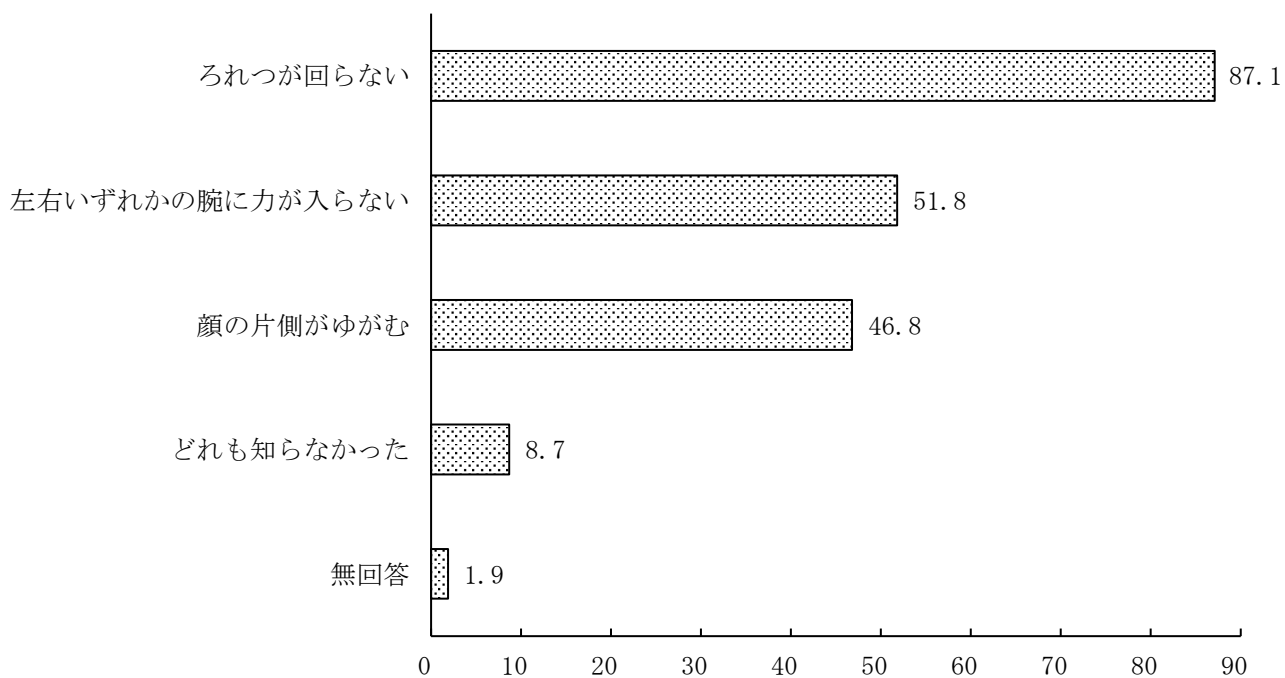
14 循環器病対策（問 46～問 48）

県では、循環器病（脳卒中や心疾患など）の未病改善や正しい知識の普及啓発、保健、医療及び福祉に係るサービスの提供体制の充実などに取り組んでいます。今回、脳卒中の主な初期症状の認知度などについて調査しました。

▼脳卒中の主な初期症状の認知度（問 46）

脳卒中の主な初期症状について、知っているものを複数回答で尋ねたところ、「ろれつが回らない」が 87.1%で最も多く、次いで「左右いずれかの腕に力が入らない」が 51.8%であった。[図表 14]

図表 14 脳卒中の主な初期症状の認知度（複数回答）（n=1,285）（%）



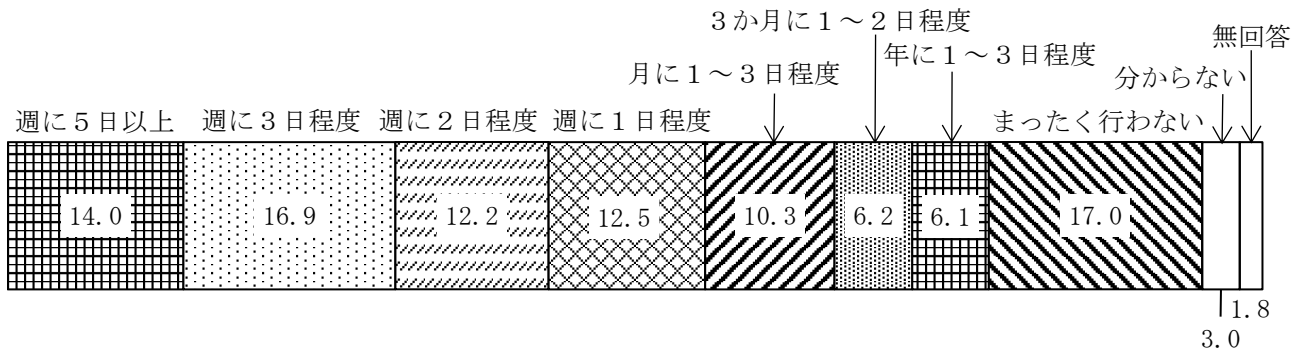
15 スポーツ（問 49～問 52）

県では、「神奈川県スポーツ推進条例」に基づき、神奈川県スポーツ推進計画「エンジョイ・スポーツ！かながわプラン」を策定し、様々なスポーツ施策に取り組んでいます。今回、1年間のスポーツ実施日数などについて調査しました。

▼1年間のスポーツ実施日数（問 50）

この1年間で1日に30分以上の運動やスポーツをした日数を尋ねたところ、「まったく行わない」が17.0%で最も多く、次いで「週に3日程度」が16.9%であった。[図表 15]

図表 15 1年間のスポーツ実施日数（n=1,285）（%）



16 かながわの広報（問 53～問 55）

県では、「県のたより」などの広報紙や県広報テレビ・ラジオ番組、ホームページ、ソーシャルメディアなどを通じて、様々な県政情報をお伝えしています。今回は、県の広報の達成度などについて調査しました。

▼県の広報の達成度（問 53）

県が県政情報を伝えていると思うか尋ねたところ、「伝えている」（12.5%）と「どちらかといえば伝えている」（35.3%）を合わせた《伝えている》は47.8%であった。

一方、「伝えていない」（5.2%）と「どちらかといえば伝えていない」（18.0%）を合わせた《伝えていない》は23.2%であった。[図表 16]

図表 16 県の広報の達成度（n=1,285）（%）

